

明月百景

望遠鏡で楽しむ月文学

050

た帝はたくさんさんの武士を、月に一番近い山へ使わし燃やさせた。その山は士(つわもの)に富む山。きつと作者はその煙

「おのが身はこの国の人にもあらを、富士(不死)山の噴煙にだぶらず。月の都の人なり(中略)いまは せたのだろう。

帰るべきになりければ、この月の 一方、私たちは探査機で月の裏ま十五日に、かのもと国より、迎へて見ることが出来る。それはゴルフに人々まうで来んず」(作者不詳 ボールのようは無表情だった。小惑星などが衝突をしても、月の裏は地

「竹取物語」) 月文学で最も有名な竹取物語。そ 殻が厚く、溶岩は流れ出なかった。のSF的趣向は、かぐや姫が月に帰 長い年月の間に地球の引力が地殻の 残した不死の薬と手紙。悲嘆にくれ 薄い半球を引っ張り、いつも同じ面を地球に向けさせるようになった。

月の裏 溶岩流れ出ず無表情

そのおかげで私たちは表情豊かな表の月の世界を每晚眺めることができる。

(文・川上紳一、
カメラ・白尾元理
写真家)

|| 終わり ||

溶岩が流れ出なかった月の裏側は黒っぽい海の部分はわずかになく無表情だ

